

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500467		
法人名	有限会社KSカムレイド		
事業所名	グループホーム松の実		
所在地	福岡県大川市向島2665		
自己評価作成日	令和2年8月24日	評価結果確定日	令和2年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

元外科医院の建物を改築して開業しているので地域との馴染みもあり、近所の方との交流もうまくいっていると感じている。大川ならではの木工祭、東洋一の昇開橋を背景とした昇開橋祭り等地域での催し物にも恵まれている。職員も地元が多く利用者も職員も方言で会話し本当に家族的な付き合いが出来ていると思える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「松の実」は平成17年に元外科医院の建物を改築して設立された。社名にある「カムレイド」とは「笑顔を絶やさぬ仲間たち」の意味がある。地域との交流も深く、敬老会を兼ねて介護講座や催し物を行い、地域の方々の参加も多くふれあいの時が持てている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、平成31年に長崎大江戸温泉に利用者6~7人づつ日を分けて外出したのが最後になっている。事業所内で利用者、職員と一緒に敬老会を行った。敷地内の庭園でいすを並べ、風船のボール投げ、紐のついた芋を手繰りよせる芋ほり、収穫した芋を利用者全員で食すなど、コロナ禍の中で工夫しながら楽しんでいる。事務長は理学療法士の資格を持ち、その指導の下、下肢運動なども取り入れている。職員も地元の人が多く、長年勤めており、家庭的な雰囲気の中で笑い声も多い。今後も地域の拠点として発展されることが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で話し合った理念を作っている、その理念に基づき実践している。	施設長、職員全員で決めた「活き活き怒々と地域の中でその人らしく過ごしましょう」の事業所理念は玄関、エレベーター、トイレ入口、利用者の部屋にも掲げ、利用者もわかるようにしている。日々の仕事のなかで理念に基づき気が付いた事は申し送りノートに書く。仕事前にノートをチェックし、職員間で共有する。月1回のカンファレンスには、休みの日でも出席できる時は出席してもらい、職員全員で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのふれあいを持ちやすい環境の中に事業所が立地している、地域の方との交流は日々おこなわれている。	地域の祭りを、利用者全員で玄関先で見物する。敬老会を兼ねて、福祉センターで介護講座を行ったり、事業所内で地域の方、家族などに介護講座を開催している。事務長は理学療法士の資格を持ち、下肢運動などの講義を行った。地域の方との交流は日々行われている。現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域との行事は見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護講座を開いたり、敬老会のときなどは理学療法士による講義をおこない、また推進会議のときなども認知症について話し合っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のときは、前回の会議からの事業所の取組みを報告し、それについて話し合いや意見を求めたりしている	新型コロナウイルス感染症の影響で現在は開催していない。施設長、職員全員でサービスの実践、改善への取り組み、事故、ヒヤリハットなどの内容について話し合い、ケアマネジャーがまとめる。まとめた内容を民生委員、地域代表(昔家族が入居していた)、家族代表などに渡し、意見を返信用封筒で送付してもらったり、電話で聞き取る。ケアマネジャーが、再度作りあげる。作り上げたものを、市に郵送する。議事録は閲覧できるように玄関に置いてある。運営推進会議でインフルエンザの情報も得て10/28には予防注射を行う。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議はもちろんそのほか、いろいろな場面で説明を求めたり、指導を受けたり相談したりしている	包括支援センターから身寄りのない人の事業所への入居について相談がある。介護保険の更新時に、介護保険課の方が見えたとき、話し合う機会が持てる。最近は新型コロナウイルス感染症に関しての備品(エプロン、手袋)などについて相談した。	
		代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開き、職員全員が拘束についての理解をするようにつとめている。但し22時から翌日6時までは防犯の意味もあり玄関は施錠している	身体拘束廃止委員会を設立し、外部研修及び内部研修を行っており、毎月のカンファレンスで職員に周知している。玄関、裏口などを開けるとチャイムが鳴る。夜10:00から朝6:00まで、防犯の意味もあり、玄関は施錠する。警備員の夜の見回りも行っている。夜間は転倒を防ぐため、センサー、手すりなどを設置しており、家族の了解を書類上でも得ている。介護ロボットを利用し、利用者の体調の見守りを行っている。言葉かけに対し気が付いた時には、すぐにその場で施設長が注意をしている。	

R2.10自己・外部評価表(GH松の実) 10.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会をおこない虐待についての理解を深め職員の意識付けをおこなうようにしている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開いている	現在制度の利用者はいない。入居時に施設長から成年後見制度の説明をしており、パンフレットも常備している。外部研修後に内部に伝達研修を行っており、職員は理解できている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る範囲で説明し理解していただくよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族との会話の中で要望や意見があったときは必ず経営者に伝えるようにして改善につなげている	運営推進会議の案内、議事録を家族に送付して、「松の実だより」のなかに利用者の様子、写真などを同封し、気になる内容には付箋をつけ、家族の訪問時に話し合い、意見、要望を集約する。息子さんにラインで送ることもある。月1回支払いに訪問する家族もあり、意見、要望などを聞く。それらを運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や代表が現場に入り身近に意見を聞くようにしている	カンファレンスは2回に分けて行っている。職員は日頃も意見や相談しやすい環境である。カンファレンスに出席できない時には、前もって意見を聞いておく。夜勤に入る時間が早くなった。シャワチェアへの購入など職員の意見や提案を反映させてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りをこころがけている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の基準をとくには決めておらず、入社してからの資格取得も支援している	30～70歳代の職員がいる。採用時の年齢制限はなく、男性社員も6名就労しており、女性も7～8人いる。年齢差はあるが、お互いにその能力を発揮して生き生きとして働いている。休憩時間は1時間あり、外に買い物に行くこともできる。資格取得などに向け、研修案内も多く、シフトを考慮してもらえる。市開催の研修が文化センターで行われ、申し込みを行った。看取りの勉強をしたいなどの希望もあり、資格取得に向け自己研鑽に励んでいる。	

R2.10自己・外部評価表(GH松の実) 10.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会を開き指導している	年2回人権研修を行っており、高齢者虐待防止、身体拘束廃止、個人情報保護など、施設長が内部研修で指導し、職員に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の機会があれば可能な限り支援するよう努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加することにより交流できるようにしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のある程度の情報を得るようにし、少しでも本人を理解するように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご家族の要望を聞くようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り必要なサービスが受けられるよう調べたりして支援するよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員に利用者を家族とおもうような意識付けの取り組んでいる		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力が必要なことを理解していただき、事業所の一方的な支にしないよう努めている		

R2.10自己・外部評価表(GH松の実) 10.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所に行ったり、交流の機会が出来るよう努めている	友人、知人の面会もあり、地域の祭り、花見などに利用者全員で出かける事も多かった。新型コロナウイルス感染症の影響で、友人、知人の面会、地域の祭りなどにも参加する機会が持てない状況である。絵が好きな人には絵を書いてもらい、編物の得意な人は編物を行ったり、事業所内の畑を耕し種をまいたりと本人の思いを大事にしている。家族の支援で美容院に行ったり、娘さんが訪問し、戸外で髪をカットされた。以前入居していた利用者の家族の訪問が今もある。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、趣味、好みに合わせた交流ができるよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者のご家族は近くの方が多く、割と疎遠にならない関係性が出来ている方だと思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の思いを理解できるよう職員間の情報の共有に努めている	初回は事業所内、病院などで、施設長、看護師などが聞き取る。暮らしの情報は家族に記入して貰ったり、聞き取った内容を生活史シートに記入している。職員間で情報を共有し、初回アセスメントはケアマネジャーが行う。職員1名が利用者3人程度を担当している。意向の把握が難しい方には、本人の表情などから汲み取り、職員間で話し合い、情報を共有し、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用になる前にできるかぎりの情報を得るように勤めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のモニタリング等により把握するよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなくカンファレンスの時などに他の職員からいけんや状況を聞くようにしている	毎月1回のカンファレンスで担当者及び他の職員から意見、状況を聞き取っている。プランに基づき、毎日の実施状況を記録しており、課題や問題点を見つけ出し、変化を見逃さず、利用者家族の意向、満足度、目標達成状況などを踏まえ、6ヶ月毎や状況変化時に担当者介護を開催する。医師、看護師、理学療法士などからの意見も取り入れ、ケアマネジャーが介護計画書を作成している。	プランに基づき毎日の実施状況を介護経過に記録し、カンファレンス、モニタリングにより変化を見逃さず、見直しにより介護計画が作成されている。プランがすぐに見えるように介護経過のところに張り付けるなど工夫してみてもどうか。また、担当者会議録に医師、看護師、理学療法士などから聞き取った意見を書かれてみてはどうか。

R2.10自己・外部評価表(GH松の実) 10.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録をとるようにし、また特に注意するようなことは申し送りするようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じて可能なサービスができるよう努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から利用されていた資源はできるだけ続行できるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添った受診往診ができるよう医療機関と連携に努めている	かかりつけ医、他科受診などは家族が対応している。提携医は4件あり、24時間対応可能である。10/28にはインフルエンザの予防注射を行う。家族送迎で受診される時は体調や状態を記録した手紙を渡している。看護師が受診結果を聞き取り、訪問診療時の結果を申し送りノートや本人のモニタリング表の下に記録し、職員が記録を確認し、共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態報告はまめにおこなっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所として解る範囲での情報の提供おこない、また医療機関からも情報提供を頂くように働きかけている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医とも話し合う機会を設け、その結果、方針などを全職員が理解するようになっている	初回の契約時に看取りについて説明をしている。看取りについての説明書、同意書もある。昨年は3名の看取りを行い、感謝されながら逝かれた。重度化された時に医師と家族が話し合い、その結果、方針などを全職員で共有し、職員は全員看取りを経験しており、事業所全体チームで支援に取り組んでいる。看取りのプランを作成し、医師、看護師より水分、排泄、病状などについて指示があり、精神的ケアについても話がある。	

R2.10自己・外部評価表(GH松の実) 10.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開いている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練をし、地域の方にも協力は依頼している	年2回夜間想定をして消防署員の立ち会いの下、火災、水害、消火などの訓練を行った。担架に人形を乗せ代替訓練を行い又米30キロを担架、車いすに乗せ重さを体験し、階段の上り下りを行った。体験の結果担架、車いすなどに人を乗せ階段などを移動することは、とても困難であることがよくわかった。水、保存食として煮豆などを3日間程度備蓄し、定期的に入れ替えを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけるようには指導している。またふさわしくないとされた時は注意している	接遇マナーの内部研修を開催し職員は周知している。写真の同意書も取得し、事業内には楽しい写真が飾られている。利用者、職員も地元の方が多く、方言で楽しい会話をしているが、なれ合いにならないように注意している。利用者の名前呼び方も家族に確認している。職員間で「早よせんね」などと言う言葉を使用している時は、施設長が注意をしている。トイレ内に貼ってある「職員の心得」から学び、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく表情をみながら理解するよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員の希望をかなえるわけには行かないが、希望があればできるだけ添うよう努めている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち物の中で工夫している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化されてきている利用者が増えてきている中、介助にて食事を摂取、又飲み込み時間に時間がかかるかなど思うようにはできないが、そのなかでも努力はしている	今年4月からは業者からおかず類は配達してもらい、事業所で湯煎している。ご飯は事業者で炊く。毎月1日、15日は赤飯を炊き、刺身を食す。おやつは事業所で作り、利用者もできることは手伝ってもらう。今年1、2、3月は事業所から5分のところにある事業所所有の「松葉の里」に車2台で利用者、職員ともに行き、バーベキューを行った。	

R2.10自己・外部評価表(GH松の実) 10.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師、介護職、調理職が情報を共有し、またチェックおこない注意している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は難しい時もあるが夕食後だけは必ず行なうようにしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の課題として取り組んでいる	排泄チェック表に記録し介護経過に排尿の時間も記載している。退院した男性利用者のカンファレンスで、排尿時間を見て職員間で話し合い、おむつから布パンツに改善された。排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排尿や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつも個々に添った支援が出来るわけではないが、無理強いするようなことはせず、希望に添うようには努力している	週2回、午後2:00前後より入浴。1階は介護浴でシャワーチェア使用。2階は普通浴。浴槽は大きくゆったりとしている。シャンプー、リンス、ボディーシャンプーなどは好みの物を使用。入浴時に皮膚などの観察をしている。冬場は血流がよくなるように足浴も行っている。入浴は大事なコミュニケーションの場としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が働きやすい環境作りをこころがけている個人個人を理解し工夫している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録のなかに説明書を作り貼付している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に聞き合わせしたりして、ご本人を理解するなかで支援するようにしている		

R2.10自己・外部評価表(GH松の実) 10.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で支援するよう努めている	近くに公園や神社もあり、遊歩道が日々の散歩コースとなっている。季節ごとに花見、祭り見物、美術展に行くなど外出の支援は行っている。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、可能な範囲で外出支援を行うようにしている。通院の帰りに家族と一緒に買い物にいかれることもある。事業内でクリスマス会を行い職員がサンタ、トナカイに扮した。1月には事業所内に神社を作りお詣りをするなど、利用者とともに楽しんだ。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じた支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	充分おこなっている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どうしても狭いので生活が密着しており、混乱をおこすようなことは少なく、季節感も感じやすいと思う	フロアには利用者と一緒に作った季節の飾り物や、行事写真も多く飾られ、利用者の笑顔があふれている。玄関、部屋など4か所にオゾン発生装置が設置されている。大型扇風機が置かれ空気の循環をしている。部屋からトイレまでの動線に、柔らかい布で作った手すりも備え付けてあり、優しさが感じられた。裏庭は広く散歩、運動会も行っている。家庭的なぬくもりを大事にして居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過せることをいつも伝えている。またどうしても気の合う合わないがあるので職員の判断で移動させていただいたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し馴染みのものを出来るだけ持ってきていただくよう依頼するがなかなか難しいので出来る範囲で工夫している	各部屋の入口には一人ひとりの優しい似顔絵が飾られている。ベッド、エアコンは備え付けてある。カーテンは自分の好みの物を使用している。仏壇、家族の写真やぬいぐるみなども飾られ、それぞれ本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い空間ではあるが、出来る範囲で工夫している		